

長野県北部、野尻湖における音波探査記録と堆積物との対応

Correlation between acoustic record and surface sediments of Lake Nojiri, Northern part of Nagano Prefecture, Central Japan

青木 優作 [1]; 井内 美郎 [2]

Yusaku Aoki[1]; Yoshio Inouchi[2]

[1] 早大・人科・環境; [2] 早大 人間科学部

[1] Human Sciences, Waseda Univ.; [2] Human, Waseda Univ.

長野県北部、野尻湖では音波探査記録の解析をもとに過去約5万年間の湖水面変動史が検討されている。この検討において問題となるのは、1.湖水面の指標、具体的には各層準における堆積層が薄化・せん滅 (pinch out) する位置の地質学的内容、2.各反射面の地質学的内容、である。これらを明らかにする目的で野尻湖において表層堆積物および柱状堆積物を採取し、音波探査記録との対応を検討した。その結果、1.最表層の堆積層が薄化・せん滅する水深(16m)は、表層堆積物の含砂率・中央粒径値が大きく変化する水深であること、2.最表層の反射面は時代未詳のテフラ層準であることが明らかになった。これらのことから、1.音波探査記録において、それぞれの堆積層が薄化・せん滅する水深は16m程度であること、2.音波探査記録に見られる反射面は同時間面とみなして良いこと、が考えられる。